PLD Amplifiers User Manual

PLD4.2 - 4 Channel, 1600 W Amplifier

- PLD4.3 4 Channel, 2500 W Amplifier
- PLD4.5 4 Channel, 5000 W Amplifier





はじめに

この度は、QSC 社製のパワーアンプをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。 QSC パワーアンプの性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの 取扱説明書を必ずお読みください。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管 してください。

開梱

製品がお手元に届いたら、すぐに梱包を解き、破損していないかどうか確認してください。 破損していた場合は、この製品をお求めの販売店にご連絡ください。その際、輸送業者の 検査に必要なため、外箱や梱包材をすべて保管しておいてください。

付属品

- PLD アンプ本体
- ・ ユーザーマニュアル
- ・ クイックスタートガイド
- ・ USB ケーブル
- 電源ケーブル

ご使用の前に

- ・ この取扱説明書にしたがって操作してください。
- ・ 梱包を開き、破損した部品や欠品がないか確認し、万一、異常がある場合は販売店にご相談ください。
- 火災や感電の原因となりますので、雨などがかかる場所、湿気の多い場所で使用しないでください。
- 換気口をふさがないでください。
- ・ 直射日光の当たる場所やストーブの近くなど高温になりやすい場所を避け、なるべく
 ・

 通気性の良いところに設置してください。
- ・ 必ず付属の電源ケーブルをご使用ください。
- ・ 電源ケーブルが踏まれたり、挟まれたりしないよう注意してください。
- ・ 長期間使用しないときや落雷の危険があるときは電源プラグを抜いてください。
- ・ 感電防止のため、天板を開けないでください。
- ・ 雑音が入る可能性がありますので、テレビやラジオの近くでは使用しないでください。
- ・ AC100V、50/60Hz にてご使用ください。
- ・ 故障が生じた場合はお手数ですが販売店にご連絡ください。無断で本体カバーを開けられた場合、保証対象外となることがあります。

イントロダクション

PLD アンプは、さまざまなスピーカーを効率良くドライブできる、十分なパワーを備えた DSP 内蔵のマルチ・チャンネル・アンプです。4ch 仕様、2U、軽量設計の筐体に DSP を 搭載し、フレキシブルにチャンネルを組み合わせることができます。単にパフォーマンス の向上だけでなく、エネルギーを最小限に抑える高い効率性をも兼ね備えています。

特徴

フレキシブル・アンプリファイヤー・サミング・テクノロジー(FAST)により 合計出力を、1~4のチャンネルに分配できます。

新しい出力デバイスを使用したカスタムパワー・ステージと、QSC 第 3 世代クラス D パワーアンプ・デザインを採用し、更に、パワー・ファクター・コレクション (PFC) と パワーライト・パワー・サプライの併用により、AC 電源電圧波形と電流波形を揃えます。 PFC により、標準的な AC 電源から非常に高い出力が得られ、より効率的に電力を引き 出すことができます。また、パフォーマンスを低下させない段階的な省エネ機能により、 軽量で効率が良く、パワフル且つ柔軟なプラットフォームを実現し、4ch のアンプとプロセ ッサーを、通常のラックスペースの 1/3 の 2U サイズに収めることができます。

PLD アンプは、有能で洗練されたスピーカー・プロセッサーでもあります。プロセッシン グとアンプを統合することにより、遥かに正確なダイナミクス・プロセッシングと、効率 性の向上を実現しています。また、RMS リミッターと Peak リミッターの双方を用いるこ とで、歪みを抑えつつ最大限の出力を得ることができます。

本体に搭載された DSP には、ラウドスピーカー・システムを最大限に活用するために必要 な「4ch クロスオーバー・フィルター」、「5 バンド・パラメトリック EQ (ロー/ハイ・ シェルフ)」、「アライメントディレイ」、「ダイナミクス」が搭載されています。

PLD アンプには、代表的なパッシブ・スピーカーに対応したプリセットが搭載されていま す。システムセット・アップ・ウィザードにより、適切なプリセットを選択したり、 テンプレートから任意の1 つを選択し、ユーザー・プリセット・ライブラリに保存する ことができます。

操作性に優れたフロントパネルには、LED メーター、LED インジケーター、400×240TFT カラーディスプレイ、ロータリー・エンコーダー、ナビゲーションボタンを搭載し、直観 的なシステムのコントロールが可能です。



- 1. 出力チャンネルラベル(A~D)
- 2. 出力チャンネル・ミュートボタン、LED(赤)
- 3. 出力チャンネル・リミッター(赤)
- 4. 出力チャンネル・-10dB以下リミッターアクティベーション LED(青)
- 5. 出力チャンネル・-20dB以下 CLIP LED(赤)
- 6. 電源ボタン(青/赤)
- 7. チャンネルセレクトボタン(入力設定時:アンバー、出力設定時:青)
- 8. 入力チャンネル・CLIP LED(赤)
- 9. 入力チャンネル・シグナル LED(青)
- 10. 入力チャンネルラベル(1~4)
- 11. LCD グラフィック・ディスプレイ
- 12. HOME ボタン
- 13. ENTER ボタン
- 14. マスター・コントロールノブ
- 15. EXIT ボタン
- 16. GAIN ボタン

リアパネル



- 1. USB 端子
- 2. XLR 入力端子
- 3. XLR 出力端子
- 4. スピコン出力端子(モノ、パラレル)
- 5. スピコン出力端子(ブリッジ)
- 6. 冷却ファン
- 7. 電源スイッチ
- 8. IEC 電源ソケット
- 9. リア・ラックマウント・ブラケット
- 10. フロント・ラックマウント・ブラケット

※PLD4.3 / PLD4.5 と PLD4.2 では、ファンとコネクターの配置が異なります。 上記は、PLD4.3 / PLD4.5 となります。

アンプコントロール



– Figure 3 –

OFF モード

- ・ リアの POWER スイッチが OFF の場合、電源未接続の状態と同じになり、アンプを 操作することができません。
- ・ フロントの POWER ボタンは点灯しません。
- ・ リアの POWER スイッチを ON にすると、待機モードに入り、POWER ボタンは各 モードに基づいて点灯します。

RUNモード

- STANBY、または MUTE ALL モードの状態で、フロントの POWER ボタンを短く 押してください。
- ・ POWER ボタンが青く点灯し、アンプは操作可能、信号が流れる状態になります。

STANDBY モード

- MUTE ALL、または RUN モードの状態から POWER ボタンを 2~3 秒間長押して ください。
- ・ POWER ボタンが赤色に点灯し、フロント液晶パネルは消灯します。
- ・ アンプの操作は不可、信号も流れない状態になります。

MUTE ALL モード

- ・ RUN モードの状態で POWER ボタンを短く押します。
- ・ POWER ボタンが赤く点滅します。
- ・ 出力がミュートされ、アンプはOFFの状態になります。

- ・ フロントパネルと DSP 機能のコントロールは操作可能です。
- ・ 変更した内容は保存され、RUN モードで実行することができます。

MASTER CONTROL KNOB

- ・ メニューの項目、各パラメーターを選択する際に使用します。
- 各パラメーターの値を調整します。

ENTER ボタン

- メニューページ、パラメーター選択ページを開きます。
- ・ 変更内容の確認、EDITモードの終了する時に使用します。

EXIT ボタン

- メニューページ、パラメーター選択ページから前の画面に戻る際に使用します。
- ・ EDITモード中に EXIT ボタンを押すと値は前の値に戻り、EDITモードを終了します。

HOME ボタン

- ・ HOME 画面の切り替えを行います。
- ・ 各ナビゲーション画面表示中に押すことで、HOME 画面に戻ります。
- ・ EDIT 画面で HOME ボタンを押すと、変更内容は保存され、HOME 画面に戻ります。

GAIN ボタン

- ・ GAIN ボタンを押すと直前に開いていた OUTPUT GAIN 画面に変わります。
- ・ もう一度、GAIN ボタンを押すと、変更した値は保存され、HOME 画面に戻ります。
- ・ GAIN 調整画面では、GAIN ボタンが緑色に点灯します。

SEL ボタン

- 入力チャンネル、または出力チャンネル設定画面で使用します。例えばチャンネルAの 出力ゲインを調整した後、チャンネルBのSELボタンを押すとチャンネルBの出力ゲ イン画面に変わります。
- ・ SEL ボタンは、LCD ディスプレイ上で入力、または出力の各パラメーター調整をする 時に有効となります。
- ・ 出力設定時は青色、入力設定時はオレンジ色に点灯します。

LIM LED

・ リミッター作動時は赤色に点灯します。

-10、-20LED

各チャンネルの出力レベルに応じて点灯します。

CLIP LED

入力信号がクリップした際は赤色に点灯します。

SIG LED

・ 信号が入力されると青色に点灯します。

PLD Amplifier Signal Flow



各設定画面

インフォメーション画面

有用な情報を一目でわかるようデザインされています。



– Figure 5 –

ナビゲーション画面

各メニュー項目の選択はマスター・コントロールノブ、ENTER ボタン、EXIT ボタンを 使用し設定します。下図は一例となります。



パラメーター編集画面

この画面ではさまざまなシステムパラメーターの変更と確認をします。 ENTER ボタンで編集内容を決定、マスターコントロールノブで値を調節します。 値を変更せずに画面を終了する場合は EXIT ボタンを押します。



– Figure 7 –

Menu Tree



プリセットについて

PLD アンプは、プリセットで駆動します。アンプの性能を最大限に活用する為には、プリ セット方法を理解する必要があります。プリセットとは入出力、DSP、スピーカーの設定 の組み合わせです。プリセットをリコール(呼び出し)すると、出力のルーティング、DSP 設定を一括で変更できます。PLD パワーアンプには、20 のファクトリープリセットと 50 のユーザープリセットが搭載されています。ファクトリープリセットは、オリジナルの プリセットを作成する際のベースとして使用できるように作られています。

ファクトリープリセット番号: F1~F9 は、DSP、スピーカーは未設定、出力ルーティングのみが設定されています。ファクトリープリセット番号: F10~F20 は、出力の設定の他に 基本的な DSP や対応するスピーカーの設定も含まれています。

ユーザープリセットの作成

ユーザープリセットは2つの方法で作成することができます。1つ目は、既存のプリセット を変更し、新たなプリセットして保存する方法。2つ目は、プリセット・ウィザードを使用 して1から作成する方法です。

新しいプリセットの保存

お使いのシステムに合わせて入力、出力、各パラメーターを選択、変更した後に PRESET メニュー画面にて保存します。

ユーザープリセットを元に編集した場合、PRESET メニュー内の SAVE(上書き)、または SAVE AS(プリセット番号、プリセット名変更)により保存することができます。

プリセット・ウィザード

プリセット・ウィザードにより、簡単にプリセットを作成することができます。

アンプ出力の割り当てを選択した後、各出力に合わせてスピーカーを割り当てることがで きます。※50のユーザープリセットはファクトリープリセット番号: F1 と同じ内容で設定 されています。

設置

PLD アンプは、標準的なラックケースに設置することができるようデザインされています。 必要に応じてリアラックレールもご使用ください。(高さ 2U、奥行き 229mm) 注意:前面と後面の排気口を塞いでいないか確認してください。それぞれ最低でも 2cm の 隙間が必要です。



– Figure 8 –

電源

PLD アンプは、100-240V 50/60Hz のユニバーサル電源、IEC コネクターを搭載して います。電源ケーブルをアンプの背面にある電源インレット、供給元のコンセントに接続 してください。付属する電源ケーブルは、本機専用ケーブルにつき他の機器では使用 しないでください。

注1:本体の電源が ON の場合、背面の出力端子は高い電圧を持つ可能性がありますので、 触れないでください。接続を行う時は、電源供給がされていないことを確認してください。 注2:信号の入力がない状態が 15 分間続くと、スイッチングを停止します。再度、信号が 入力された瞬間に RUN モードに戻ります。

リアの POWER ボタンで電源を OFF にした後に再度電源を接続した場合、最後の設定が 保存された状態で戻ります。



- Figure 9 -

入力

1 から 4 までラベリングされた XLR メス端子があります。1 つのチャンネルに入力した 信号を、1 つの出力チャンネル、または複数の出力チャンネルに送ることができ、1 から 4 つの入力チャンネルを自由に使用することができます。入力インピーダンスは 10kΩ (バランス、アンバランス)、入力感度は+4、または+14dBu で選択できます。4 つの XLR オス端子は XLR メス端子とパラレル配線されていますので、他の外部アンプへ出力する時 などに使用することができます。

注意:PLD パワーアンプは、さまざまな入力を出力にルーティングする機能があります。 接続がアンプの設定と一致していることを確認してください。

Inputs

Connect the Audio Inputs



USB

USB ケーブルで PC と接続し、ソフトウェア「Amplifier Navigator」を使用することがで きます。このソフトウェアではアンプのファームウェアのアップデート、設定した ファイルの保存、展開をすることができます。詳細についてはオンラインヘルプを参照 してください。

出力

PLD パワーアンプは、4 つの設定可能な出力を備えています。出力(ブリッジ、パラレル) の組み合わせ、出力 W 数、DSP をそれぞれのチャンネルに対し、個別に設定をすることが できます。アンプの出力構成が変更されると、それに応じてリレー制御された出力端子の 接続も変更されます。各スピーカーシステムの配線は図の 14~22 を参考にしてください。 出力構成の選択

最初に接続したスピーカーに基づいてプリセットを選択します。

ファクトリープリセットを選択した後、必要に応じて各パラメーターを変更することが できます。変更した内容はユーザープリセットとして保存可能です。新規にプリセットを 作成する際は、「Power Distribution Charts」を使用することができます。設定が変更され る時は、4 つすべてのチャンネルは自動的にミュートされます。





注意:アンプの電源が ON の際には、背面の出力端子に高い電圧が流れている可能性が あるため、触れないよう十分に注意してください。接続を行う前に電源が接続されていな いことを確認してください。

- 1. 背面の POWER スイッチを ON にしてください。アンプは、RUN モード、または最後のモードで起動します。
- 2. フロントの POWER ボタンを短く押すと、ボタンは赤く点滅し、ミュートモードに なります。
- 3. プリセットの呼び出し、プリセット・ウィザードを使用し、スピーカーに合わせた適切 な設定を選択してください。

下記は、チャンネル 1 から 4 までを使用した設定例です。設定を考える上で参考にして ください。

One-Channel Configurations



– Figure 16 –



- Figure 19 -

Three-Channel Configurations





スピーカーの接続

注意:アンプの電源が ON の際、背面の出力端子に高い電圧が流れている可能性がある ため、触れないよう十分に注意してください。接続を行う前に電源が接続されていない ことを確認してください。

1. アンプの背面にある POWER スイッチを OFF にします。

2. アンプの設定(図14から22)に合わせてスピコンコネクター(図23)を結線してください。

3. アンプの設定に合わせてアンプの背面にあるスピコンコネクターに接続してください。

下の表はそれぞれのモードで、どのスピコンコネクターをどのように結線するかを示して います。選択したモードで複数のコネクターを使用する場合は、1つ、またはすべてを使用 することができます。例えば、ABCDパラレルモードでは、「ABCDすべて」だけではなく、 「ABCDのどれか1つ」、「AとB」などのように使用することができます。

		M	0	utput Connecto	rs		
NL4	Separate	AB Parallel	ABC Parallel	ABCD Parallel	Star	Idard	Bridged
۵	Ch A 1+/1-	1+ / 1-	1+/1-	1+/1-	P		
	Ch B 2+ / 2-1	1.71	1+/1-	1171-	$(((\mathbf{A})))$	$(((\mathbf{B})))$	$(((\mathbf{X})))$
В	1+/1-	1+/1-	1+/1-	1+/1-			
					V	1.	V
		CD Parallel					E -
C	Ch C 1+/1-	1+ / 1-	1+/1-	1+/1-	$((\bigcirc))$	$(((\mathbf{D})))$	
	Ch D 2+ / 2-1	1171-	117.12	1171-			
D	1+/1-	1+/1-		1+/1-			
						— Figure 24 —	

	A+B Bridged	C+D Bridged	AB+CD Bridged
Х	1+/1-	2+/2-1	1+/1-
Y		1+/1-	
		- Table 1	_

1 For Bi-Amp operation.

電源投入

スピーカーを出力端子に接続した後で電源を ON にしてください。

- 1. 接続しているすべての機器(CD プレーヤー、ミキサー、楽器など)の出力ゲインが最小 に設定されているかどうか確認してください。
- 2. 接続しているすべての機器の電源を ON にしてください。
- 3. アンプの背面にある POWER スイッチを ON にしてください。アンプは前回 OFF に した 時の状態で起動します。
- 4. 接続している機器の出力ゲインを調整してください。

Power Distribution Charts

以下のチャートは、異なる負荷(Ω)での、最大 W 数、各構成における各チャンネルの出力 W数を示しています。

		PL	.D4.2	PLD4.3		PLD4.5	
		Peak	Continuous	Peak	Continuous	Peak	Continuous
	80	500 W	400 W	900 W	625 W	1200 W	1150 W
A, B, C, D	4Ω	700 W	400 W	1400 W	625 W	2000 W	1250 W
	20	625 W	325 W	1200 W	625 W	1600 W	625 W
2 Channel BTL Bridged	80	1200 W	800 W	2400 W	1250 W	4000 W	2250 W
A+B or C+D Doubles Voltage	4Ω	1500 W	600 W	NR*	NR*	NR*	NR*
	20	NR*	NR*	NR*	NR*	NR*	NR*
2 Channel Parallel	<u>80</u>	500 W	400 W	1300 W	1150 W	1250 W	1150 W
AB or CD Doubles Current	4Ω	950 W	800 W	2000 W	1250 W	2400 W	2250 W
	20	1200 W	800 W	2500 W	1250 W	4000 W	2100 W
1 Channel 3CH Parallel	80	500 W	400 W	1400 W	1150 W	1400 W	1150 W
ABC Triples Current	4Ω	950 W	800 W	2400 W	2000 W	2500 W	2400 W
	20	1800 W	1200 W	3500 W	2500 W	4500 W	4100 W
1 Channel Bridged/Parallel	<u>80</u>	1600 W	1500 W	3500 W	2500 W	4500 W	4200 W
AB+CD Doubles Current and Voltage	4Ω	2500 W	1600 W	5000 W	2500 W	7500 W	4200 W
	20	NR*	NR*	NR*	NR*	NR*	NR*
1 Channel 4CH Parallel	8Ω	500 W	400 W	1400 W	1150 W	1600 W	1150 W
ABCD Quadruples Current	4Ω	1000 W	800 W	3000 W	2500 W	3000 W	2300 W
	20	1700 W	1600 W	5000 W	2500 W	5300 W	4200 W

For complete specifications of power output distribution (single, bridged, parallel channels and all combinations), please refer to the product's User Manual. NR* = Not Recommended due to excessive current draw

BOLD = Optimal configuration for the load and channel count

プリセット・ウィザード

注意:特に明記しない限り、この手順に記された各値は、PLD4.3の場合の値となります。 PLD4.2、PLD4.5に表示される内容と異なる場合があります。

HOME > PRESETS > PRESET WIZARD > ENTER

Step 1 – インピーダンスとアンプ出力の調整





* アンプモデルにより値が異なるため、「%」で表示しています。

– Figure 25 –

Step 2 - 各出力チャンネルにスピーカーをアサインします。

OUTPL	JTS	SPEAKERS	:) E	GAVE	各チャンネルのインピーダンス とアンプ出力を設定後 SPF	
Output:	Α	В	С	D	AKERタグのページが表示 されるまでスクロールします。	出力チャンネルを選択
Imped:	8.0	8.0	8.0	8.0		
Power:	625	625	625	625		ENTER C決定、STEP3へ
Spkr:					スピーカーのアサインはオプ	
	<mark>Assign</mark>	Assign	Assign	Assign	ションです。全く設定をしなく ても問題ありません。	

Step 3 - スピーカータイプの選択

OUTF	PUTS SPE	AKERS	SAVE	BandとFilterの値は、	SpeakerをENTERで選択	ENTER
	Output:	Α	//	されているため、初めにスピーカーを選択し	スクロールでスピーカーモデルを選択	\bigcirc
Speak	ker: WL2102	BilfNS		ます。	確認後、ENTERで決定	ENTER
Ba	nd: 2-Way L	.F			Band、またはFilterを選択	\bigcirc
Filt	ær: 80 Hz				ENTERで決定	ENTER
	ASSIGN				パラメーターを調整	\bigcirc
					ENTERで決定	ENTER
					ASSIGNを選択	\bigcirc

ENTERで決定 📟

Step 4 - ユーザープリセット番号の選択



既存のプリセットから新しいプリセットを作成する

既存のプリセットからもう一つのプリセットを作成するには、希望する出力設定を含んだ プリセットを呼びだし(リコール)、入力、出力の各パラメーターを修正し、最後にプリ セットを保存「セーブ」します。作成する過程の途中で「セーブ」することもできます。

プリセットのリコール

プリセットには、出力設定、入力のパラメーター、そしてスピーカー・プロフィール (DSP、 ロード、アサイン)が含まれています。初期の段階では、20 個のプリセットが搭載されて おり、リコール可能ですが、上書きする事は出来ません。

- プリセット F1~F9:出力設定のみ
- プリセット F10~F20: 出力設定と基本的な DSP
- ・ 50 個のユーザー・プリセットは、リコール/上書き可能です。

HOME > PRESETS > PRESET RECALL > ENTER Step 1 - プリセットの選択



Step 2 – 選択の確認



プリセットを選択し、ENTER 🔤 選択を確認し、ENTER 🔤

画面下に"Recalling Preset now...…"と表示されます

入力のセットアップ

注意:インプットレベルの変更はリアルタイムです。 HOME>INPUTS>INPUT SENS>ENTER

Step 1 – 入力感度の選択



HOME > INPUTS > INPUT GAIN > ENTER

Step 2 – 入力ゲインの調整



出力のセットアップ

注意:インプットレベルの変更はリアルタイムです。

ソースの選択

PLD アンプにはルーターが内蔵されているため、4 つの出力チャンネルそれぞれに入力 ソースを選択することができます。

・ デフォルト設定:入力1→出力A、2→B、3→C、4→D

図4のように1つの出力チャンネルに対して入力ルーティングを選択可能



– Table 4 –

+14または+4dBuを選択 (背景が緑色に変わります) 選択を確認し、ENTER mm

SELで次の入力へ移動 画

残りの入力チャンネルも同じ 手順で設定します。

入力ゲインを-100~20dB(0.1dB単位)で選択 (の) 選択を確認し、ENTER (Firm) SELで次のチャンネルへ移動 (EI) 残りの入力チャンネルも同じ 手順で設定します。

HOME > OUTPUTS > SOURCE SEL > ENTER

Step 1 - 各出力チャンネルの入力ソースの選択



 入力ソースを選択

 (1、1+2、2、2+3、3、3+4、4)
 選択を確認し、ENTER
 SELで次のチャンネルへ移動
 残りの入力チャンネルも同じ 手順で設定します。

スピーカープロセス

スピーカーのセッティングでは、それぞれの出力チャンネルにおいて、クロスオーバーやEQ、 ディレイ、リミッターの調節を行います。

さらに、もともと内蔵されているスピーカープリセットを使用した場合、様々な調節、変更を 行うことができ、ユーザープリセットとして保存する事ができます。

各内容を調節するときにはリアルタイムに音が変化します。

※ただしパラメーターの調節をすることができないプリセットも含まれています。

スピーカープロフィール

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > LOAD SPKR > ENTER

スピーカープロフィールでは、全てのDSPとスピーカーの特性をSPKR PROC画面で設定可能 です。スピーカープリセットをLOADすると、すべてのDSPとそのスピーカーの特性を呼び 出します。

PLDアンプは、たくさんのラウドスピーカーのプリセットを内蔵していますが、それぞれの モデルに対し、最適な設定がセットされているため、変更できないパラメーターがあり ます。よって、スピーカーを設定せずに、新しいプロフィールの作成、保存にも対応して います。

スピーカープリセットは、ファームウェアの更新とともにモデルが追加されていきます。

注意:パラメーター調節などの変更をした後に、スピーカープリセットをLOADした場合、 全ての変更は上書きされます。 Step 1 - 出力チャンネルごとにスピーカープリセットをロード



SPEAKERを選択し、ENTER	ENTER
スピーカーモデルを選択	\bigcirc
確認し、ENTER	ENTER
Band、またはFilterを選択	\bigcirc
選択し、ENTER	ENTER
パラメーターを調節	\bigcirc
確認し、ENTER	ENTER
LOADを選択	\bigcirc
ENTERを押して決定	ENTER

クロスオーバー

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > CROSSOVER > HIGH-PASS (OR LOW-PASS) > FREQ > ENTER





HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > CROSSOVER > GAIN/POL > GAIN > ENTER





Gain、またはPolarityを選択	O
選択し、ENTER	ENTER
パラメーターを調節	\bigcirc
確認してENTER	ENTER

Freq、Type、Slopeを選択 🔘

選択し、ENTER 🔤

確認し、ENTER 📖

EXITで終了 📰

EXITで終了

パラメーターを調節

パラメトリック・イコライザー

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > PEQ > BAND 1, 2, 3, 4, OR 5 > BAND BYPASS > ENTER

The graph is a composite of all five bands. Each band has a full range of 20 Hz to 20 kHz.





ディレイ

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > DELAY > DELAY TIME > ENTER





リミッター

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > LIMITER > ENTER





モードにカーソルを合わせてENTER 📟 AUTO、ADV、OFFからモードを選択 🔘 AUTO ADV OFF

確認し、ENTER 🔤

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > LIMITER > AUTO SpkrPwrの最大値は、出力構成により異なります。チャンネルを分ける 場合は400W、1つのチャンネルで使用する場合は1600Wです。 Step 2 - AUTOモードのパラメーター設定





Type -AUTO Limiterは、Mild、Medium、Aggressiveの3つのタイプから選択できます。 このTypeパラメーターは、セットされたスピーカーのパフォーマンスを最大にする演算法 でデザインされています。

SpkrPwr - 接続したスピーカーの許容W数に合わせてください。

SpkrImp - 接続したスピーカーのオーム数に合わせてください。

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > LIMITER > ADV

Step 3 - ADVモードのパラメーター設定



ラインアレイ



NOTE: You must have a QSC line array loaded in order to access the Array Correction parameters. 注意: Array Correctionのパラメーターの調整をするためには、QSCラインアレイのロードが必要です。

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > ARRAY > ENTER

Step 1 - ラインアレイ全体の角度とスピーカー数の設定



スピーカープロフィールの保存

HOME > OUTPUTS > SPKR PROC > SAVE SPKR > ENTER

スピーカープロフィールを保存すると、各チャンネルの出力設定はすべて保存されます。 保存した新しいプロフィールはロードする必要はありません。

Step 1 - カスタムスピーカープロフィールの保存

	KERS SAVE
Output Data:	AB + CD
Band:	2-Way LF
Nominal Imped:	16.0
Power Rating:	1000
Enter Speaker Info	

Step 2 – スピーカープロフィールの名前を作成



Band、Norminal Imped のの Power Ratingから選択

確認後、スクロールしてSAVEページへ移動

選択し、ENTER men パラメーターを調節 〇 確認し、ENTER men

プリセットの保存

全てのチャンネル入力と出力の修正の後、現在の設定にプロフィール名をつけ、ユーザー プリセットの1つへ(U1~U50)に保存(SAVE)します。 HOME > PRESETS > PRESET > SAVE > SAVE AS > ENTER

Step 1 - 新しいプリセットの保存、プリセット番号の編集と選択



Step 2 - 新しいプリセット名の設定 U1: ABCD New Preset Nameを選択後、ENTER 🔘 📼 編集中の文字 User Preset Number: 新しいプリセット名 New Preset Name 編集する場所を選択後、ENTER 🔘 📟 X fig Α n 文字を選択後、ENTER 🔘 📟 SAVE 21字まで入力可能 A-Z/a-z/0-9/_/-/ スペース Press ENTER to edit preset name

Step 3 - プリセットの保存



HOME > PRESETS > PRESET SAVE > SAVE > ENTER

使用中のユーザープリセットを保存する場合に下記手順を行って ください。SAVE ASメニューで保存したプリセットは、そのまま使用 することができ、SAVEメニューで上書き保存をすることができます。

Step 1 - プリセットの上書き



ENTER ENTER

保存しない場合は、EXIT 📼

User Preset Numberを選択し、ENTER 📖

1~50の中から任意の番号を選択

確認し、ENTER 🔤

入力完了後、EXIT 📼

SAVEを選択 🔘

ENTERで確定 🔤

ENTER (ENTER)

保存する場合は、ENTER 📟

ユーティリティー

HOME > UTILITIES > STATUS > ENTER

Step 1 – アンプのステータスを確認 UTILITY - STATUS	アンプの合計駆動時間 HH(時):MM(分):SS(秒)	温度: 各チャンネル
Amp Total Run Time:22:37:48Hardware:V12TemperatFirmware:V1.0.22CH1 & CDC Status:OKCH2 & CVRail 1:148VPower SuVRail 2:-150V	Hrs ure: ハードウェアバージョン H3: 27C ファームウェアバージョン H3: 29C DCステータス VRail 1 =+VDC+/-87V VRail 2 =-VDC+/-87V	パワーサブライ 69°Cでリミッターが作動 80°Cでシャットダウンします。
HOME > UTILITIES > AMP ID > ENTER Step 2 - アンプの名前を設定		



HOME > UTILITIES > PASSWORD > ENTER

すべてのアンプのデフォルト・パスワードは、QSC — すべての大文字 — です。大文字、小文字 を区別しています。10文字以内、長めに、A — Z、a — z、O — 9、スペースを使用してください。

Step 1 - パスワードの追加、または変更



Current Passwordを選択し	. ENTER	ENTER
----------------------	---------	-------

1文字目を選択し、ENTER 文字を選択し、ENTER

現在のパスワードを入力すると自動的に「New Passward」が選択 されます。「New Passward」でも同じ手順を繰り返してください。

 \bigcirc

CONFIRMを選択	O
ENTER	ENTER

ENTER

HOME > UTILITIES > LOCKOUT > ENTER すべての操作はロックされていますが、Muteボタン、全面パネル背面のPowerボタン、Enterボタン Masterコントロールノブはアンプのロック解除のためロックされていません。

Step 2 - パスワード入力(ロック、またはロック解除)



Enter Passwordを選択し、ENTER	ENTER
1文字目を選択し、ENTER	
文字を選択し、ENTER	
入力したパスワードが正し 自動的に「CONFIRM」が選	い場合、 択されます。
lock、またはunlockを選択し、ENTER	ENTER

QSC Audio	EV	Peavey
AP-5102	ELX112	PR10
AP-5122	ELX115	PR12
AP-5122m FOH	ELX215	PR15
AP-5122m MON	TX2152	PV115
AP-5152	TX2181	PV118
GP118-sw		PV12M
GP212-sw	JBL	PV215
GP218-sw	JRX112M	PVX12
S8T	JRX115	PVX15
S10T	JRX118S	SP218
S12	JRX125	SP4
WL118-sw	MRX515	Vamaha
WL-2102	MRX518S	
WL212-sw	MRX525	DDIDM
WL218-sw	MRX528S	RP15
	PRX415M	C115V
B52	PRX425	S115V
LX1515V3	SRX712M	\$215V
LX18V3	SRX715	SM15//
MX1515	SRX718S	SIM(219)/
MX18S	SRX722	5442104
	SRX725	
Cerwin-Vega (CV)	SRX728S	
EL-36C	SRX738	
TS-42	VRX932LA	

仕様

		PLD4.2	PLD4.3	PLD4.5		
4ch Contious		•				
	8Ω	400W	625W	1150W		
	4Ω	400W	625W	1250W		
	2Ω	325W	625W	625W		
2ch Contious		1				
	8Ω	800W	1250W	2250W		
	<u>4Ω</u>	800W	1200W	2250W		
	252	65UW	1200W	2100W		
Ich Contious		10000	05000	100000		
	852	16000	2000//	42000		
	10	1600W	250000	420000		
	10	1600W	250000	4230W		
至み	132	10000	230000	3700W		
	80		0.01-0.03%			
	40	0.03-0.06%				
最大歪み	132					
	4 Ω-8Ω		1.00%			
周波数特性						
			20Hz-15kHz,±0.2dB			
	025		20Hz-20kHz,+0.2dB/-0.7dB			
ノイズ						
		U	Inweighted Output Unmuted:-101d	В		
			Weighted Output Muted:-109dB			
ゲイン(1.2V設定	1時)	1				
1.0		34.0dB	38.	4dB		
ダンピングファク	19-		2450			
7 + 10 10 1"			>150			
<u> </u>	<u>)</u> ,		N 101 (12 - 2			
	/ 201/個型字明寺	10.00\/(±0/JdD)				
	<u>1</u> 2)/静定時		3.88V(+14dBu)			
コントロール・イ	<u> 14 Ya Xievy 0,000 (14 dou)</u>					
Power、チャンネルMUTEボタン、チャンネルSELECTボタン Input Signal/CLIP LED インジケーター、Channel Output/LIMIT LED メーター、HOME, ENTER, EXIT, GAIN ボタン、コントロールノブ						
出力端子						
アンプ、負荷保護						
		ショートサーキット、オーブンサーキット、熱, RF保護、On/Offミュート、DC異常シャットダウン 突入電流保護、入力電流保護				
AC100-240V 50/60Hz						
<u>)肩實電刀(1/8P</u>	OWERV	F 0 A /0 C 0 A /1 C 4 0 A /0 C	F 0 A (0 O) F 0 A (1 O) A 0 A (0 O)	0.14 (00 0.04 (10 3.04 (00		
-+:+		<u> 5.2A/852、5.3A/452、4.9A/2Ω</u>	<u> 0.3A/852、0.0A/452、0.3A/2Ω</u>	<u> 8.187852、9.987452、7.2872Ω</u>		
当法		W100-110.0-D00.5	W100-110/	VD40.6 om		
W402XT0.3XD30.3 Cm W402XT0.3XD40.0 Cm 大体重量/細句重量						
/+、1平里里/1田辺	<u> </u>	8.4kg/10.0kg	0.5kg/11.3kg	10 0kg/11 9kg		
		1 0.TK6/ 10.0K6	1 3.0K6/11.0K6	I TOTOREA LITORE		

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障について は、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期 間は通常ご購入日より1年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに 該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

- 1. お取扱い方法が不適当(例:ボイスコイル焼けなどの故障等)なために生じた故障の場合
- 2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
- 3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加 えられた場合
- 4. 天災(火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等)による故障及び損傷の場合
- 5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
- 6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
- 7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合(例:発電機などの使用による異常電圧変動等)
- 8. 消耗部品(電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等)の交換が必要な場合
- 9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合(例:スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等)
- 10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良 ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号 が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担に て、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号(返品承認番号)

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記して下さい。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください(お客様のご負担の場合はどの便でも結構です)。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から 生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関し て、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切 の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。